

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE SUMMER EDITION

北星学園大学 北星学園大学短期大学部



02-03

[地域連携活動]
まちとつながり、
まちを元気に。

～社会福祉学部福祉計画学科の取り組み～

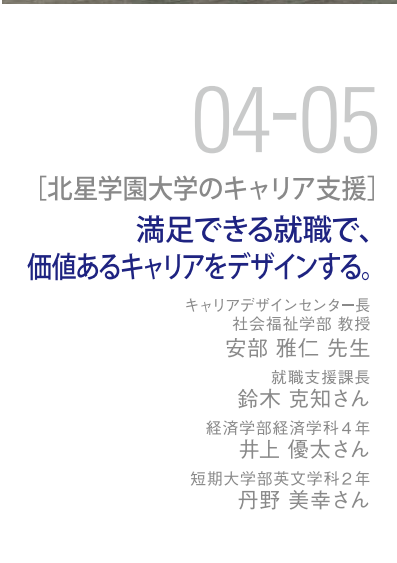
社会福祉学部 教授
杉岡 直人先生
社会福祉学部福祉計画学科4年
上西 夏実さん
杉本 有紀さん
吉田 直人さん
吉澤 悠太さん



02-03

[地域連携事例]
地域と大学が
育むさまざまな絆

厚別区民まつり
北星学園大学チアダンス部「STARRYS」
みんなの! 新さっぽろフォトコンテスト
北星オープンユニバーシティ
ヤチフェス
東日本大震災 被災地応援プロジェクト
FMプロジェクト
チャレンジ合宿
大谷地東小学校の英語教育サポート



04-05

[北星学園大学のキャリア支援]
満足できる就職で、
価値あるキャリアをデザインする。

キャリアデザインセンター長
社会福祉学部 教授
安部 雅仁 先生
就職支援課長
鈴木 克知さん
経済学部経済学科4年
井上 優太さん
短期大学部英文学科2年
丹野 美幸さん



06

[学生たちの素顔]
タイで見つけた、
私らしいボランティアのかたち。

文学部
心理・応用コミュニケーション学科2年
神田 真佑さん



07

[OB&OGインタビュー]
卒業生は、いま。
きのとやのお菓子で、
人も地域も幸せに。

株式会社きのとや
専務取締役
中田 英史さん



08

[HOKUSEI INFORMATION]
北星学園大学からのお知らせ
きのとや × 北星学園大学
コラボスイーツ
北星オリジナルクッキーが完成!

[北星学園大学
オリジナルグッズが当たる]
まちがいさがしクイズ

地域連携活動

まちとつながり、 まちを元気に。

～社会福祉学部福祉計画学科の取り組み～

北星学園大学は2008年より札幌市厚別区および(株)札幌副都心開発公社と三者連携協定を結び、厚別区のまちづくりや各種行事等への協力を行っています。また、学科独自で地域連携活動を進める例も少なくありません。今回はその中から、社会福祉学部福祉計画学科の活動事例をご紹介します。



社会福祉学部福祉計画学科は、福祉の観点から少子高齢化社会の問題解決をはかり、新たな価値創造を担う人材の育成を目指しています。社会で求められる実践力を磨くための体験型プログラムを多く取り入れており、専門科目「コミュニティワーク実習」もそのひとつです。

2008年より実習の一環として、過疎高齢化が進む歌志内市でフィールドワークをスタート。住民へのヒアリングなどを行い、高齢者をめぐる地域の問題と向き合ってきました。翌2009年からは、歌志内市と同じ高齢化が進んでいる厚別区もみじ台地区でも面接調査などのフィールドワークを開始。このフィールドワークがきっかけとなり、「厚別区民まつり」にもボランティアとして参加するようになりました。

「厚別区民まつり」は、厚別区内の町内会や自治会による屋台やステージプログラムなどが開催され、毎年7万人あまりが訪れる夏の大イベントですが、高齢化が進む町内会や自治会にとってイベント運営の負担は小さくありません。本学学生は、もみじ台地区と厚別西地区の屋台でイカ焼きや焼鳥などの調理・販売をお手伝い。若い学生たちが地域を支える力となり、住民のみなさんと交流を深めながら、教室では得られないたくさんの学びを受け取っています。



まちを愛する人々の思いにふれました。

イカ焼きの販売では初め大きな声が出せずなかなか売れなかったのですが、慣れてくるとお客さんと話すのがだんだん面白くなってきました。初めて厚別区民まつりをお手伝いして感じたのは、まちの人々はみんな自分のまちが好きなんだということ。北星学園大学もまちの一員として受け入れられている実感があり、とてもうれしく思いました。



まちのあちこちで、地域と大学の絆が育まれています。——— [北星学園大学の地域連携事例]



地域の子どもたちにダンスの楽しさを伝える『キッズチアダンス交流会・発表会』を開催しているほか、「学生サークルによるまちづくりプロジェクト」の一環として厚別区民まつりでチアダンスを披露し、会場を盛り上げています。



厚別区役所、(株)札幌副都心開発公社、北星学園大学の共催で写真コンテストを開催。写真を通して厚別区の魅力を再発見し、まちづくり活動に活かしています。今年度のコンテスト応募期間は9/5(月)～30(金)。ふるってご応募ください!



(株)札幌副都心開発公社と本学の連携プロジェクト。サンピアザ1F光の広場で被災地復興写真パネル展を実施したほか、本学吹奏楽部によるミニコンサート、被災した企業を作る加工食品などの販売を行いました。



経済学部経営情報学科と新さっぽろのコミュニティ FM ラジオ放送局「FMドラマシティ」が連携。学生が企画・制作・放送する番組「HGU ☆N-STAR(ノスターチャンネル)」を通じて、地域の様々な情報を発信しています。



社会福祉学部
福祉計画学科4年
すぎもと ゆき
杉本 有紀さん

世代を超えた交流を楽しみました。

町内会のみなさんに教わりながらイカの皮むきをお手伝いしました。イカを氷水に漬けながら皮をむくのは手が冷たくて大変でしたが、祖父母のような方々とお話しながらの共同作業はとても楽しかったです。地域の高齢化が進んでいるとはいえ、みなさん元気にお祭りを楽しんでいて、思い描いていたお年寄りのイメージが少し変わりました。お祭りは地域の人々が世代を超えて交流できる貴重な機会。地域福祉に興味を持って学んできましたが、地域のイベントが持つ意義に改めて気付かされました。



社会福祉学部
福祉計画学科4年
よしだ なおと
吉田 直人さん

将来の目標を見出すきっかけに。

地域のみなさんの「自分たちのお祭りを自分たちの手でつくる」という思いを感じ、僕たちも本気でお祭りを楽しむつもりで臨みました。町内会は高齢の方が多く、テントの組み立てなど体力を使う作業を僕たちが勤んで引き受け、とても喜ばれました。歌志内市ともみじ台地区のフィールドワーク、厚別区民まつりを経験したことで、将来は地域支援活動に携わりたいと思うようになりました。高齢者と子どもが交流できる場やイベントを創出し、誰もが元気に暮らせるまちづくりを夢見ています。

体験を通して 地域の「いま」を学ぶ。



社会福祉学部 教授
すぎおか なおと
杉岡 直人先生

「コミュニティワーク実習」は歌志内市ともみじ台地区の高齢者実態調査を核としており、福祉の分野で社会の役に立ちたいと願う学生たちが意欲的にフィールドワークに取り組んでいます。厚別区民まつりでのボランティアは、学生が地域のみなさんと一緒に汗を流すことで、調査だけではわからない地域の課題や住民の思いを体験的に学べる貴重な機会。回を重ねるごとに地域との連携も深まり、まちぐるみで学生の活動を応援していただけるのもありがたい限りです。地域で学んだことを地域のために役立てる人材をひとりでも多く輩出できればと願っています。



社会福祉学部
福祉計画学科4年
よしだ ゆうたく
吉澤 悠大さん

町内会における若者の必要性を実感。

今まで町内会活動には関心がなく、地域の行事に参加したこともなかったのですが、町内会の方々は若い僕たちをととても歓迎してくれました。当日は焼鳥の販売を担当。今までにないほどたくさんの人との交流を楽しむとともに、地域活動に若者を取り込む必要性を改めて感じました。歌志内市やもみじ台地区でのヒアリング活動とは違い、地域の一人としてまちの賑わいや高齢化に伴う課題を実感できたのが大きな収穫。学内だけでは学べない「社会の「いま」」を体験的に学ぶ貴重な機会となりました。



●北星オープンユニバーシティ



「社会に開かれた北星」を目指して、地域のみなさまにもご参加いただける学習プログラムを開催。語学や資格取得、文化教養など多様な分野の講座を開講しています。

申込方法など詳しい情報は、ホームページ(<http://www.open.hokusei.ac.jp/>)より閲覧できます。

●ヤチフェス



文学部心理・応用コミュニケーション学科・演ゼミを中心に、大谷地スノーフェスティバル(通称:ヤチフェス)を開催。雪遊びを通して近隣の子どもたちと交流をはかっています。

●チャレンジ合宿



文学部心理・応用コミュニケーション学科の学生が中心となり、大谷地東小学校の子どもたちとの共同生活を実践。親元を1週間離れて生活する中で、子どもたちの自立心やコミュニケーション能力が育まれていきます。

●大谷地東小学校の英語教育サポート



文学部英文学科・江口ゼミの学生が大谷地東小学校の英語教育活動をサポート。子どもたちが遊びを通じて全身で英語を覚えるプログラムを実践しています。

満足できる就職で、 価値あるキャリアをデザインする。

ここ数年売り手市場の傾向が続く新卒学生の就職状況。しかしその一方で、大卒新入社員の3割が3年以内に離職するという事実があります(厚生労働省調べ)。その背景には就職活動における企業と学生のミスマッチが少なくありません。学生が適性や希望にかなう就職を実現し、社会人として価値あるキャリアを重ねていけるよう、北星学園大学では手厚い就職サポートを展開しています。本学の2015年度の就職率は大学96.6%、短期大学部94.7%。道内大学の中でもひとときわ高い実績であり、その大半が希望どおりの就職を果たしています。

●キャリアデザインセンター

就職支援課が窓口となり、キャリア支援や就職活動のバックアップを行っています。キャリアカウンセラーを含む経験豊かなスタッフが一人ひとりに寄り添い、夢の実現を全面的にサポートします。



●キャリアデザインプログラム

入学直後からキャリア教育科目を通じて職業意識を養うとともに、大学3年次・短大1年次より本学独自の「キャリアデザインプログラム」を展開。学内企業説明会や企業等訪問研修、業界研究講座や就活直前講座など、多彩なプログラムを通じて一人ひとりの就職活動をバックアップしています。

本学は毎週水曜3講目に
他の授業を一切入れずに
キャリアデザインプログラムを組んでいます。

■キャリアデザインプログラム

	1年生	2年生	3年生(短大1年生)	4年生(短大2年生)
前期	キャリア教育科目 「職業と人生I」	キャリア教育科目 「職業と人生II」	キャリアデザイン プログラム	キャリアデザイン プログラム
後期	キャリア教育科目 「職業と人生I」	キャリア教育科目 「職業と人生II」		

北星キャリアデザイン座談会

社会人としての実りある第一歩を、ここから。

希望の就職を実現する秘訣とは? 大学による就職支援の賢い利用法とは?
就職内定を獲得した学生と就職活動を支えた職員が語り合いました。



キャリアデザインセンター長
社会福祉学部 教授
あべ たかひろ
安部 雅仁 先生



就職支援課長
すずき あきひろ
鈴木 克知 さん



経済学部経済学科4年
いのうえ ゆうた
井上 優太 さん
(内定先: 農業系金融機関)



短期大学部英文学科2年
たんの みさき
丹野 美幸 さん
(内定先: 航空業界)

キャリアデザインプログラムを活用して夢を実現

安部: お二人はそれぞれ第一志望の企業から内定を受けたそうですね。

井上: 最初は50社以上にエントリーして他業種の企業情報を集め、最終的には8社に絞り込んで面接に臨みました。農家のアルバイトを通じて農業の厳しい実情を知り、農業融資を通じて力になればと思っていたので、希望していた農協系金融機関に決まるととてもうれしいです。

丹野: 私は航空会社5社の最終面接へ進み、先に内定をいただいた2社のうち1社に決めました。来春から新千歳空港のカウンタースタッフとして勤務する予定です。高校時代から航空業界に憧れ、業務に必須の英語を学ぶため英文学科へ進学。入学直後から就活を意識してキャリアデザインプログラムに参加していました。

鈴木: 本学は毎週水曜3講目に他の授業を一切入れずにキャリアデザインプログラムを組んでいます。通常の講義枠ですから、授業が多く忙しい短大の丹野さんも無理なく参加できたのではないのでしょうか。

丹野: 座学の講座はもちろん体験型の研修にも参加しました。航空会社のインターンシップでは空港業務に対する手応えを実感しました。さらに「自分の適性を知るためには希望職種以外の業界を知ることも大切」とアドバイスを受け、金融機関の企業訪問にも参加し、接遇や業務の違いを知ることで改めて航空業界を目指したいと思い、航空業界特別講座で面接対策に取り組みました。

安部: インターンシップや企業訪問は学生の立場ではわからない仕事の実態を知るチャンス。「やっぱりこの世界で働きたい」と思えるなら就活の励みになるし、「憧れていたけど自分に合わない」と気づけば早めに方向転換する上でも有効です。

井上: 私もキャリアデザインプログラムを活用しました。SPI(適性試験)で自分の適性や努力すべき点を分析したり、自己PRスキルを磨くグループワークに参加したり。4~5社の採用担当の方によるトークセッションでは、企業が求める人材像を広い視野から学ぶことができました。



キャリアデザイン
プログラムの事例
PICK UP



【学内企業説明会】

首都圏大手企業と道内優良企業を中心に約300社の企業を招いて説明会を開催。学内で企業情報を収集し、採用担当者と直接対話できる貴重な機会です。

【カリスマ講師による講座】

カリスマ講師として知られるキャリアコンサルタントなど著名な外部講師を積極的に招聘。受講した学生から感動の声が多数届く人気講座です。



【業界研究講座】

自分はどのような仕事に向いているのかを知るためには、まずどのような仕事があるかを知る必要があります。

「業界研究講座」では、商社・流通・小売・外食・IT・金融・コンサル・教育など、それぞれの業界がどのようなものであるかについて、理解を深める手助けをします。

就活中から就職後までを見据えた親身な個別対応

安部：お二人ともキャリアデザインプログラムを上手に利用していたようですね。では、「キャリアデザインセンター」の窓口となっている就職支援課は利用していましたか？

井上：筆記試験対策の本や先輩の合格体験記を読んだり、エントリーシートの添削や面接練習でよく足を運んでいました。就活中はスタッフの方々が必要に応じてフォローアップしてくださり、楽な気持ちで面接本番に臨むことができました。

丹野：私もスタッフの方々に「航空業界希望」と伝えていたので、航空関連の講座やセミナーの情報をこまめに知らせてもらえてとても助かりました。面接練習では緊張しがちな私を温かく励ましてくださり、気持ちの面でも支えていただきました。

鈴木：就職支援課ではキャリアデザインプログラムと並行して、個別相談にも力を入れています。今はメールや会員制交流サイトで手軽にコミュニケーションできる時代ですが、直接会って話すことで一人ひとりの悩みや希望を聞き出し、その人に最適なアドバイスができます。希望業種でなかなか内定がもらえず、スタッフに相談するうちに自分の適性に気づき、別の業種に挑戦して見事内定を獲得した学生もいました。

安部：自分を知り、納得できる仕事に巡り会えれば、入社後にさまざまな試練があっても乗り越えていけるはず。他者との対話は自分を見つめ直すきっかけにもなりますから、気軽に就職支援課を利用してもらいたいですね。

鈴木：学生の中には「友達同士なら話せるのに面接でうまく話せない」という人もいます。社会ではさまざまな世代とのコミュニケーションが求められますから、就職支援課スタッフとの対話をトレーニングとして利用してもよいと思います。また、ここ数年は企業の選考解禁時期が毎年のように変わり、学生の就活スケジュールにも影響しています。就職支援課ではさまざまなネットワークを活用して情報の収集・発信を行うとともに、キャリアデザインプログラムにも反映させていきますので、ますます多くの学生に活用してもらいたいと思います。

安部：大卒新入社員の離職率3割と言われますが、本学ではひとりでも多くの学生に「ここでキャリアを重ねたい」と思える就職を実現してもらいたいと願っています。内定をもらうための付け焼刃の言葉ではなく、仕事への熱意を感じさせる言葉が採用担当者の心を動かすもの。社会人としての実りある第一歩を踏み出せるよう、私たちも全力でサポートしていきます。





タイで子どもたちが通う教会で、地元の女性たちとともに。



タイで見つけた、私らしいボランティアのかたち。

第1回 国際ボランティアワークキャンプ

2016年3月4日(金)～10日(木)

派遣先：タイ王国 パタヤ 児童福祉施設バーン・ジンジャイ

派遣内容：児童福祉施設での奉仕活動、タイと日本の文化交流

派遣学生：3名(大学2名 短大部1名)

北星学園大学スミス・ミッションセンターでは、アジア圏での奉仕活動を通して国際貢献の精神を養うことを目的に、2015年度より有志学生による国際ボランティアワークキャンプを実施しています。今年3月にタイで実施した第1回ワークキャンプに参加した神田さんにお話を伺いました。



文学部心理・応用コミュニケーション学科2年
神田 真佑さん
北星学園大学附属高等学校出身



バーンジンジャイへ続く道は未舗装のままでした。



大きい子は小さい子の世話をし、みんな仲良し。



プレゼントした日本のおもちゃで遊ぶ子どもたち。



現地で調達した材料で手巻き寿司を振舞いました。

タイのもう一つの顔

タイは「微笑みの国」と呼ばれ、国際的観光地として人気の高い国ですが、貧困層はさまざまな事情を抱えています。今回私が訪れたパタヤ近辺でも、望まない妊娠やHIV感染、虐待や育児放棄など、とりわけ子どもたちを取り巻く状況はとても深刻でした。今まで私はそうした問題は親の責任だと思っていましたが、実際は生きるためにそうせざるを得ないケースが大半であり、性産業が外国人観光客の呼び水になっているため、国として子どもを救済できずにいるのが現実でした。美しいビーチがあり、外国人観光客で賑わうパタヤの暗い側面を知り、問題の根の深さを痛感しました。

児童福祉施設での出会いと気づき

私がタイ国際ボランティアに参加したのは、こうした厳しい現実を自分の目で確かめ、自分ができることを考えたいと思ったからです。そんな私にとって、パタヤで訪問した児童福祉施設バーン・ジンジャイ(BJJ)は多くの気づきをもたらしてくれました。BJJでは困窮する子どもたちを迎え入れ、健康な暮らしと教育の機会を提供しています。子どもたちは人懐っこく、一緒にバレーボールをしたり、日本から持参したおもちゃで遊んだりして、言葉が通じなくてもすぐに仲良くなれました。しかしこの子どもたちは恵まれている方で、街には困難を抱える子どもたちがたくさんいることを思うと、日本人の私に何ができるのか、改めて考えさせられました。

ボランティアをライフワークに

今回の経験を通じて、自分らしい国際貢献のあり方や今後の生き方が見えてきました。それは、日本で働きながら個人として支援を続けていくこと。タイでは国外からの支援物資の種類に応じて関税がかかるため、現地が本当に必要としているものが届きにくいのだそうです。ならば自分で働いたお金で物資を調達し、現地へ持参しようと考えました。そうすれば確実に届けられるし、子どもたちやお世話になった方々にも会えます。とくにBJJの先生方とは会員制交流サイトを通じて交流が続いているので、今後もボランティアを超えた絆を大切にしていきたいです。私にとってボランティアはライフワーク。そう思えるきっかけくれた国際ボランティアワークキャンプに感謝しています。

OB & OG Interview

卒業生は、いま。

きのとやのお菓子で、 人も地域も幸せに。

札幌市民はもちろん国内外の観光客にも大人気の洋菓子店「きのとや」。現在専務取締役として経営の中枢を担うとともに、この夏お目見えする北星オリジナルクッキーの商品化をサポートしてくださった本学卒業生の中田英史さんにお話を伺いました。



株式会社きのとや 専務取締役

なかた ひでふみ

中田 英史 さん

1988年北星学園大学文学部社会福祉学科卒業



責任ある仕事に鍛えられ、若くして昇進

福祉の道を志して北星学園大学に入学。勉強だけでなく軽音楽サークルのバンド活動やアルバイトなど充実した学生生活を過ごし、福祉施設の指導員として社会人の第一歩を踏み出しました。でも実際に働き出すと自分の適性に合わないと感じることが多く、1年で退職。将来について考えていた矢先、縁あって学生時代のバイト先だった[きのとや]に入社することになりました。店頭販売から始まり配送、販促、総務、製造などあらゆる部門を経験し、36歳で取締役就任。常務取締役を経て現在は専務取締役を務めています。若いうちから責任ある仕事を任せてもらえたおかげで、上を目指してがむしゃらに頑張ってきたのだらうと思います。

ケーキと一緒に感動を届けたい

もともと[きのとや]は東札幌の小さなケーキ屋から始まりました。「ケーキは作って並べて待つ商売」と言われた時代に、遠方のお客様のもとへパースデーケーキを届けたことからケーキの宅配をスタート。特別な日のお祝いにふさわしい華や

かなデザインのケーキやラッピング、スーツに蝶ネクタイの宅配スタッフがお届けするスタイルが評判を呼び、急成長を遂げました。現在は札幌市内10店舗を展開していますが、「ケーキと一緒に感動を届けたい」という[きのとや]の思いは昔とまったく変わりません。私自身も入社してから息つく間もないほど多忙な日々でしたが、ケーキを手にしたお客様の笑顔に励まされ、一日一日を積み重ねて今に至ります。

札幌に軸足を据え、母校にも貢献

三度の食事はおなかを満たすものですが、お菓子は心を満たすもの。[きのとや]は、お菓子を通じてお客様はもちろんすべての社員と生産者の皆様の幸せをお手伝いし、「札幌に[きのとや]あり」と地域の皆様が誇りに感じてくださる企業でありたいと願っています。この夏、[きのとや]と北星学園大学のコラボ企画としてオリジナルクッキーの商品化をお手伝いさせていただきました。北星オリジナルクッキーが多くの方に大学を知っていただくきっかけとなり、学生や教職員の皆さんに愛されるお菓子となれば、[きのとや]の一員としてはもちろん卒業生としてとてもうれしく思います。



東苗穂にある[きのとや]本社・工場。併設の工場直売店では限定スイーツも買うことができます。



道産を中心とした素材の良さには自信あり。北星オリジナルクッキーも中田さんが太鼓判を押すおいしさです。



TOPICS

きのとや × 北星学園大学コラボスイーツ 北星オリジナルクッキーが完成!

2016年8月、北星学園大学と札幌の人気洋菓子店「きのとや」のコラボレーションスイーツ「北星オリジナルクッキー」が完成しました。この企画は本学卒業生で(株)きのとや専務取締役の中田英史さんの「母校に貢献したい」というご好意により実現したものです。昨年秋に中田さんと本学広報課(現IR広報戦略室)との間で行われた協議内容に基づき、今年6月に学生広報委員会で「きのとやオリジナルお菓子製作プロジェクト」が発足。有志学生3名とIR広報戦略室スタッフがアイデアを出し合いながら商品化を進めてきました。

北星オリジナルクッキーは「きのとや」の人気商品「南郷通り」をベースに商品化しました。南郷通りは「きのとや」発祥の地であり、本学の立地にも縁が深い地名です。クッキーの表面には、大学の校章を始めとした2種のオリジナルロゴが印字されています。

北星オリジナルクッキーは、9月15日からセンター棟1階のカフェ「NORTH STAR CAFE Sarah」で販売します。学外の皆様にもご購入いただけますので、どうぞお気軽に足をお運びください。

※学生広報委員とは、学生の目線から北星学園大学の魅力を発信することを目的とした広報活動を行うボランティアの学生です。



●北星オリジナルクッキー
4枚入り(アマンド・セサミ・ショコラ・マカダミア)の他、14枚入りのセットもご用意しております。

●きのとやオリジナルお菓子製作プロジェクト



社会福祉学部
福祉心理学科4年
やおたにひろし
八百谷 滉さん



社会福祉学部
福祉臨床学科2年
にしやま もえみ
西山 萌美さん



文学部
心理・応用
コミュニケーション学科2年
すがわら ゆうや
菅原 悠矢さん

目を引くロゴやパッケージ、学生にも買いやすい販売方法など、学生目線で工夫を凝らしました。「大学を市民に広くアピールするとともに学生広報委員会の活動を学内外に知ってもらうきっかけになればうれしいですね」と3人は口を揃えます。

北星学園大学オリジナルグッズが当たる!

まちが い さ が し ク イ ズ

北星学園大学構内をご紹介します2枚の写真があります。左の写真と比較して、右の写真に6ヵ所間違いがありますので、その6個をお答えください。ハガキに答えを記入して応募すると、抽選で10名様に北星オリジナルクッキーと北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス!

[今号のまちがいがしスポット]

カフェ「NORTH STAR CAFE Sarah」

昨年10月、本学センター棟1Fにオープン。3種類の本格的なコーヒーや1日5食限定の「ハンバーグカレー」など、学生食堂では味わえないメニューもあります。一般の方もお気軽にご利用ください。



★応募要項

ハガキに以下の内容をご記入の上、下記送付先まで応募ください。

- ①問題の答え(まちがい6個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいがし」係

★正解発表

『HOKUSEI@COM』22号(2017年1月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は景品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で商品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

※住所等の必要事項が記入漏れの場合は、無効といたします。